

Be creative !



快挙！サッカー部 いざ、プリンスリーグへ！

サッカー部リーグ戦が終了しました。本校サッカー部は1部リーグにおいて2位の成績を収め、プリンスリーグ参入への挑戦権を獲得しました。12月11日・12日と静岡県磐田市においてプレーオフ戦が開催されます。本校初の快挙と言えるこの結果を携え、12月7日、本学園丸山理事長と面談をしました。理事長室を訪問したのは3年生キャプテン黒野大地君、副キャプテン橋場徹哉君、山盛翔君の3人。顧問として彼らを導いた鶴飼建吾先生と速水聖矢先生も同席いたしました。

まずは、キャプテンの黒野君より「愛知県1部リーグ2位という結果を出すことができました。この週末、プリンスリーグに参入するためのプレーオフの試合が静岡県磐田市で開催され、出場することになりました。静岡学園Bチームと対戦します。全員で一丸となって、精一杯戦ってきます。」と理事長に挨拶を行うと、「今年のチームは一番を目指せるチームだと思い、指導をしてきた。リーグ戦の最後のところでは、3年生だけでチームを組んで戦ってきた。改めて今年の3年生の力のすごさを思い知らされる試合が続いた。あの力があって、この結果がもたらされた。」と速水先生も戦いを振り返ります。「勝率では2位だったが、勝ち点で言えば愛知県の高校で1位となる。高校生の力をなめたらいかん。選手はとてつもない力を持っている。」と鶴飼先生も言葉をつなげます。丸山理事長も「予想以上の頑張り、誰もここまでくるとは想像していなかった。7年前は大差で負けていたチームがこんなに短い間に1部に上り、さらにその上のプリンスリーグを目指すことになるとは。」と、このサッカー部の大躍進に驚きを隠せないという様子でした。



「今年の目標は1部に残留することだった。」と黒野君、橋場君、山盛君の3人は口を揃えます。「I部で戦えるというだけでもすごいこと。これをどう維持するかということがまず、今年の第一の目標だった。」鶴飼先生も、彼らの言葉に「本当にその通りだった。『負けられない試合』に照準を当て、どう戦うかを決めてきたというのが本当のところ。ところが、めきめきと力を発揮し、勝ち進む中で目標が変わっていった。」と言葉を付け足します。「これはやれるかなと思った瞬間があったとするとそれはいつ頃？」と



問うと、「リーグ戦の4試合ぐらいを通過した時。勝ち進む自分たちに自信が生まれてきた。これはいけるのではないかという気持ちがわいてきた。」と彼らは語ります。

「他の部活の頑張りも自分たちに大きな力を与えてくれました。周りの人たちの活躍を聞いて、同じ部活で頑張る高校生として、他の部活が成果を出すと自分たちもがんばらなれないと思えました。大きな刺激をみんなからもらってきました。」これまで他の部活の模範となってきたサッカー部の生徒たちから、このことが語られたことは驚きでもあり、それだけ学校全体の部活動が成長を

し、活躍の幅を広げてきたという証であると、校長として、彼らの言葉をとてもうれしく思いました。加えて、生徒たちが他者から学び合う力を育てていることは何とも誇らしいことだと思います。

「この3年間、トーナメントでの結果を出すことができなかった。ベスト8に行けなかった。」ことに対する悔しさも語られました。「蹴り合いになればなるほど一人一人の能力に差が出るシーンが試合では多くなる。ベスト8以上の力を持つチームに1つ、2つ続けて勝つことはイメージできるが、3つ4つと続けて勝利をしていくイメージがまだ持てないでいる。ただ、だからと言って落ち込むことはない。リーグ戦は通年の取り組みになるので、自分たちが力を入れて取り組んできたことを地道に続けていけば、2位という結果につながるんだということが今回のことでよくわかった。」と鶴飼先生が生徒の言葉を補いました。

自信になったことは何か、生徒の皆さんの意見を聞かせてもらいました。「強豪選手との個人技術の差に圧倒されることがあるが、自分たちの強みは組織力、チーム力があるということだ。試合の時も、全員で声を出し、挑んでいくことで、試合を自分たちのペースに持ち込んでいく。選手層に厚みはないが、それをチーム力でカバーし、その組織力の高さが年間の勝率につながっていった。」と山盛君。「この学校でサッカーをするために入学した自分だったが、1年生の頃は技術もそれ以外の面も未熟だった。上級生になり、下級生が入ってくることにより、自分がやらなくてはならないという責任感を強く感じるようになっていったが、同時にうまくいかないことやミスも多々あり、ふてくされてしまうところもあった。改めて、自分のプライドを立て直しながら、自分がやらなきゃいけないと強く思うことができるようになった。」と黒野君。「自分も日福のチーム力の強さを実感している。きつい時こそみんなで声を掛け合ってきた。試合も最後まであきらめなかった。だからこそ、最後の試合ではアディショナルタイムで点を取り、逆転勝利を収めることができた。こういう取り組みができるチームの一員であることをうれしく思っている。」と橋場君。



3年間蓄えてきた力を発揮し、頑張れ！日本福祉大学附属高校サッカー部。いざ、君たちの晴れ舞台へ！

今月の言葉 一 学校法人日本福祉大学 丸山 悟 理事長



自分たちの課題をどう具体的にとらえていくか、強いチームになっていくためにも、選手として成長するためにもこのことは極めて大事なことです。抽象的にしかとらえられないうちは、成長はできない。成長するために何をすべきか、それが見えないからだ。自分の課題を具体的にとらえてこそ、その課題の解決策が見え、克服ができる。自分自身で徹底的に考え、「解」を見出す、その取り組みこそが大事だ。これは訓練がいることでもある。しかし、これができるようになれば、サッカーという一つのことを通して、技術を伸ばすことができる、人間としての成長も生み出せる、学力も伸びる、互いの関係性を構築する力もつくというように、多面的に自分自身の能力を伸ばすことができる。君たちがこのレベルに到達できたということは、精一杯頭を使って伸びてきたということ、体も使ってきた、チームメイトとの関係性も磨き、構築してきた、あらゆる点でレベルアップしてきた。その結果として手に入れたプリンスリーグへの挑戦権だ。

—サッカー部生徒との対談の最後に語られた言葉